



アメリカ大使館 主催 / 文部科学省 後援
 ニューヨーク大学プロフェッショナル学部東京校 提供

日本人英語教員のための アドバンスト・セミナー

～3日間の集中トレーニング～

アメリカ大使館からの助成金により **無料**

申込み締切り

7/17
SUN

日本の英語教育に精通したニューヨーク大学プロフェッショナル学部
 東京校の講師陣から、最新の英語教授法を学びませんか。

ニューヨーク大学プロフェッショナル学部東京校は、日本で活躍する現役の英語教師に、*TESOLの集中トレーニングプログラムを提供しています。このプログラムでは、*CLT(コミュニケーション・ランゲージ・ティーチング)を採用し、日本における英語の授業でますます進化している英語教師としての役割を務めるために、不可欠なスキルを学習していきます。講座では、第二言語習得、教授法、授業の成功事例などの読解に取り組みます。実際の授業を想定して、英語で内容を伝えたり、英語でのコミュニケーション環境を強化したり、生徒のクリティカル・シンキング・スキル(批判的/論理的思考能力)に磨きをかけるなど英語で演習を行います。英語を英語で教え、どんな規定プログラムにも役立つ授業の教材を作成し、実施することに自信が持てるようになります。

*TESOL…[Teaching English to Speakers of Other Languages]。英語が母国語ではない人々向けの英語教授法。
 *コミュニケーション・ランゲージ・ティーチングは言語学習観の一つ。外国語教授法として数えられることもある。教授法としては、コミュニケーション能力の育成を中心とし、情報の格差(インフォメーション・ギャップ)を埋めることがコミュニケーションの本質であると規定する。

***** **応募資格** (以下、すべてを満たす方) *****

- ★日本全国の中学・高校の現職英語教員、および指導主事の方
- ★英語での授業に参加できる一定レベルの英語力をお持ちの方
- ★英語教授法のスキルを高めたいと考えている方
- ★他の参加者とのディスカッションや共同作業に積極的に参加できる方

開催日時

オリエンテーション	2016年8月18日(木) 17:00～18:15 (18:15～19:30懇親会)			
セミナー	2016年8月19日(金)～8月21日(日)(3日間)			
	8月19日(金)	8月20日(土)	8月21日(日)	
	午前	10:00～12:00	9:00～12:00	9:00～12:00
	午後1	13:00～15:00	13:00～15:00	13:00～17:00
午後2	15:15～17:15	15:15～17:15		

*使用言語：英語 *詳細スケジュールは裏面をご参照ください。

セミナー会場

株式会社ニチイ学館 神戸ポートアイランドセンター
 〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-5

受講料

アメリカ大使館が奨学金として全額負担
 *セミナー期間中、宿泊が必要な参加者(25名限定)の
 宿泊費もアメリカ大使館が負担します。 *交通費は実費となります。

募集人数

40名 厳正な書類選考の上、参加者を決定いたします。選考された方には、7月末にご本人に通知いたします。
 *プログラム修了者には、ニューヨーク大学プロフェッショナル学部東京校より Certificateが授与されます。

お問い合わせ 本セミナーに関するお問い合わせは、下記までご連絡ください

ニューヨーク大学プロフェッショナル学部東京校 (*ニューヨーク大学プロフェッショナル学部東京校は、株式会社ニチイ学館が運営する教育機関であり、文部科学省認定の大学とは異なります。)

☎ 0120-265-212 [24時間受付] ✉ embassy-nyu-ali-tokyo-scholarship-group@nyu.edu



応募方法

アメリカ大使館の特設サイトからお申し込みください▼

<https://business.form-mailer.jp/fms/3935d62055942>

アメリカ大使館 広報文化交流部・教育人物交流室 担当：落合



3日間の集中トレーニング



ニューヨーク大学プロフェッショナル学部は、全米最大かつ名門大学のひとつであるニューヨーク大学を母体とし、実社会で活躍するプロフェッショナルな人々に、実践的なプログラムを提供してきた歴史を持ちます。その一機関である東京校は、世界トップレベルの第二言語教育プログラムを提供する場として、2013 年秋、品川にアメリカン・ランゲージ・インスティテュート (ALI) を開校いたしました。

これまで5回にわたり約250名の英語教師の皆様に、プログラムを提供して参りました。今回2016年夏、「アドバンスト・セミナー」としまして、さらに進化した画期的内容のプログラムを提供いたします。以前受講された方々もご参加いただけます。この機会に、是非ご応募ください!

本セミナーのプログラム・コーディネーターとして、多くの方々にお会いできるのを、楽しみにしております。



ニューヨーク大学プロフェッショナル学部東京校 アカデミックディレクター

CHRIS CARL HALE クリス・カール・ヘイル

Day 1

8月19日(金)

午前 > 語彙指導とコミュニケーション・ランゲージ・ティーチング

by Dr. Tiina Matikainen

2011年度版の文部科学省の提唱するカリキュラムの要綱には、教師が文法や語彙といった言語特質に過度に焦点を当てないようにと記されています。しかし、生徒が試験のために必要となる知識を教えること、生きた言語や社会的交流を重視した文部科学省の指導要綱に準ずること、この二つを両立させるのは、中学校や高校の教師にとって、難しい課題となっています。このワークショップでは、生徒の取り組みややる気を向上させるのと同時に、二つの目的を両方とも達成させられる、実用的かつ直接的な手法を学びます。

午後1 > 英語で英語を教える/英語で英語を学ぶ

by Dr. Gregory Paul Glasgow

日本の文部科学省は、高校からは英語の授業を英語で教えるという新規構想を立ち上げました(2011年度版文部科学省指導要領)。また、同省は、「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」(2014年版/文部科学省)において、外国語としての英語授業の目標言語として中学校教師に、主に英語を使用するよう提唱しています。しかし、自身の問題や授業や学校の問題などに日々直面しているため、文部省の指導に準ずる自己能力に、いまだに不安を感じている教師もいます。こうした課題に対処するため、本ワークショップでは、教師がクラスルーム・イングリッシュの複雑さをより深く理解し、教師の英語レベルに関係なく、目標言語の使用頻度を増やすコツを学びます。

午後2 > 英語教授語用論/英語学習語用論

by Dr. Noriko Ishihara

たとえ文法が完璧でも、社会文化的な状況に即した英語を使わないと、相手を怒らせてしまったり、誤解を招いてしまったりすることがあります。たとえば、知らない人や親しい友人、あるいは自分よりも社会的地位が高い人に対して、英語でどのように話しかけたり、挨拶したり、お願いをすればよいのでしょうか。日本語教育の中では、見過ごされることが多い、英語の社会的文化的側面があります。文化基準や会話習慣を習得するのは、何年もかかってしまいますが、調査によれば、明確な指導により、そのプロセスを早めることができるのです。今回の授業では、英語の語用論に焦点を当て、適切な英語の語法を明らかにする方法を検証していきます。

Day 2

8月20日(土)

午前 > 生徒の学習意欲を高める法

by Dr. William Snyder

日本の生徒が英語への学習意欲を高く持てない理由は、本質的なやる気の欠如、つまらなくて難しい教材、つまらない授業、試験へのプレッシャーなど、これまでたくさん挙げられてきました。多くの生徒にとって、英語は、必須科目であるにも関わらず、授業は生徒主導ではなく、教える側主導となっています。本ワークショップでは「生徒に聞く」というスモール・アクティビティを紹介します。このアクティビティにより、生徒は学習により積極的になり、教師は自身の指導や生徒の学習に対するフィードバックを聞くことができます。指導法をじっくり検討し、生徒のやる気を引き出す生徒主導型の学習を促すことを目的とした、今後の指導方法を決定することができます。

午後1 > コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチングによる評価

by Dr. James Sick

CLTの授業において、生徒の生産的スピーキングのスキルを評価するのは、特に難しいと考えられているのが現状です。本ワークショップでは、CLTの授業の実例を用いて、スピーキング評価の概念や手法を検証していきます。妥当性、信頼性、実用性、真正性、波及効果といった5つの評価原則を取り入れた評価理論の概要から着手します。そして、日本の中学や高校で効果的に使用されているいくつかのスピーキング評価の手法を検証します。指導現場で直面している現実的問題を共有し合い、コミュニケーション・スピーキングが通常の生徒評価の一環になるための実際の解決策を考えていきます。

午後2 > 教師としての成長

by Dr. Chris Carl Hale

専門的能力の開発は、英語教師にとって不可欠のものです。しかし、残念ながら、なかなか時間が作れないのが現状です。今回の授業では、振り返りを行うことで、自分の生徒にとってより良い学習効果を生む実施にどのように結び付けるのか、掘り下げていきます。自身の能力開発に積極的に取り組むのはもちろん、ネットワークを築き維持していく方法に焦点を当てます。「アメリカン・イングリッシュ(AmericanEnglish.state.gov)」のサイトは、授業で使える教材が見つけれられるだけではなく、教育者として成長し続けるために、また、他の教師とつながりを持ち続けるためにも、教師にとって貴重な資源になります。本ワークショップに参加することで、自信が深まり、教師の作る広大な教育ネットワークの一員だという自覚を持てるようになります。

Day 3

8月21日(日)

午前・午後の授業 > マイクロ・ティーチング

講師やクラスメートからフィードバック、サポートやアドバイスを受け、自分で考案した授業を実践します。フィードバックを参考にCLTを採用した授業の質を上げていくことができ、自信を持って英語での授業の実践に臨むことができるようになります。